

## Gated SPECT は臨床に役立つか？

### 左室容積，左室駆出率算出の問題点

趙 圭一\* 汲田伸一郎\*

要旨 心電図同期心筋 SPECT データから算出される左室容積，左室駆出率は再現性が高く，かつ客観的であるが，R-R 分割数，使用核種，使用解析アルゴリズムなどにより様々な影響を受ける．まず，R-R 分割数による影響として，分割数の減少に伴う拡張末期容積の過小評価，収縮末期容積の過大評価，結果として左室駆出率の過小評価が挙げられる．したがって，検査目的に合致した分割数の設定が重要と考えられる．通常，核種間，解析アルゴリズム間の左室駆出率は良好な相関を示すが，左室容積は核種と解析アルゴリズムの組み合わせによっては必ずしも一致した傾向を示さず，注意が必要となる．左室内腔が 20 ml 未満で高頻度となる“small heart”では，収集・再構成法を工夫することである程度の機能解析が可能となる．以上，心電図同期心筋 SPECT データから算出した心機能値は，様々な因子からの影響を十分考慮に入れた上で診断指標として用いることが肝要と思われる．

(核医学 39: 97-102, 2002)